

海上における船舶ための共通通信システムの在り方及び  
普及促進に関する検討会WG 第3回会合 議事要旨（案）

- 1 日時 平成20年6月10日（火）10:00～12:00
- 2 場所 総務省10階 1001 共用会議室
- 3 出席者
  - (1) 構成員（敬称略）  
林 尚吾（座長）、足立 利男、稲垣 好人、大久保 隆洋、大西 泰史  
（代理）、蒲田 浩二、菊地 剛、城戸 賛、窪田 英弥、小池 貞利、  
小泉 一葉、斎藤 春夫、斎藤 光明、清水 偉行、杉浦 毅、鈴木 晋也  
（代理）、田原 孝義、津幡 岳弘、豊嶋 基暢、中村 勝英、藤田 泰彦、  
増田 正司、待場 純、宮寺 好男、山崎 保昭、山田 力、山本 廣、  
渡辺 悟
  - (2) 事務局  
名執衛星移動通信課長、坂中企画官、濱崎課長補佐、岡調整係長
- 4 議題
  - (1) 現時点におけるWGの検討課題について
  - (2) 制度SWGの開催について
  - (3) 海上通信システムの評価について
  - (4) 船舶共通通信システムの要件について
  - (5) その他
- 5 議事概要

まず、本検討会において、海上の共通通信システムを制度面から検討する  
目的で追加されたワーキンググループ構成員（桑原構成員、豊嶋構成員、斎  
藤構成員、藤田構成員）について、その旨の報告と紹介があった。

  - (1) 現時点におけるWGの検討課題について  
前回までの会合で出された意見を踏まえ、追加等の更新を行った検討事  
項（案）について説明があった（資料海共WG 3 - 3）。その際、次のよ  
うな議論がなされた。
    - ・ 海岸局補完型共通システムの必要性を確認したい  
→ 共通通信システムにおいて、利便性や安全性など何を優先させて検討  
するかにもよる。  
→ 船間通信を海岸局が中継するのは、危険性をはらんでいる。

- ・携帯型国際VHFとあるが、携帯型はデフォルトなのか。据置型は検討されないのか。
  - 携帯型国際VHFとして補助的用途にしてもよい。
  - 携帯型と据置型で値段もそこまで変わらない。プレジャーボートの場合、国際VHFは置きながら使用することが多い。
  - ここで携帯型と呼んでいるのは、必ずしもハンディ型という意味でなく、複数の船舶に持ち運べる可搬型という意味もあるのではないか。
- ・「転落者からダイレクト位置情報を発射する」ことの必要性とは。
  - 転落海難において船舶が転覆しているケースが多いことを考慮すると、船舶を介さずダイレクトに位置情報を送信できる方式が望ましい。
- ・回避のための判断基準など最低限の海上交通ルールを知っていないと、通信ができて海難を防止できるとは限らない。
  - 講習を行うべき。
  - 大型船舶の操作にあたっては各社ごとに教育が行われているが、本議論で意見されるように、その対象を小型船舶にまで広げるとするのは、改めて検討すべき。
  - 自動車運転免許の更新のように、免許の更新時に講習を行うのはどうか。
  - 講習制度の導入は、海上通信利用のハードルがあがってしまうのでは。海技免状の更新講習に含めてはどうか。
  - 携帯電話を使用するために講習は必要とされない。システムの性質上、講習が必要となるかもしれないが、まずは講習を必要としないようなシステムを検討すべきではないか。
  - 国際VHFを使用するためには、最低限知るべき通信のためのルールがあると思われる。
- ・無線従事者資格試験などでも、もっと運用面を重視すべき。
  - 試験問題とその解答は原則、法規に則るものであるため、すぐに取り入れるのは難しいと思われる。
- ・（大型船舶の見地から）大型船舶は操作性能が鈍くなるので5～6マイルの余裕をもって避航し、燃料を無駄にしない程度に遠回りする。波の高い日などは小型船舶がレーダーに映りづらくなるが、AISのように船舶識別ができるとメリット大きい。
  - （小型船舶の見地から）定期的に航行するフェリーなどは予め遭遇する時間が分かるため、小型船舶は操業を止めて避航する。定期的に航行する船舶でなくてもスケジュールの事前周知されれば小型船舶も協力して避航すると思われる。

(2) 制度SWGの開催について

林座長から、海上の共通通信システムを制度面において検討するため制度サブワーキンググループを設置することの説明があった。

(3) 海上通信システムの評価について

中村構成員から、メーカーSWGでの議論について報告があった(資料海共WG3-5)。資料海共WG3-5は、既存の海上通信システムと新しく想定される海上共通通信システムについて、システム上、制度上及び安全上など内容により重み点をつけた各評価項目ごとに点数をつけ、そのトータルスコアを比較したもの。この報告の際、次のような議論がなされた。

- ・ユーザーとしては、ユーザー負担ランニングコスト及びユーザー負担初期コストを重要視したい。簡便なシステムを望む。
- ・必要条件としては、船舶の自動識別と国際VHFによる通信が挙げられる。
- ・「簡易型AIS+国際VHF(一部)ch組込型」とあるが付属型(別体)でもよい。
- ・本会合での議論を踏まえ、WGの構成員全員で評価を行うことでさらに評価の観点を広げたアンケート調査を行いたい。  
→アンケート評価基準を送り、全体の集計をとる。

(4) 船舶共通通信システムの要件について

- ・一般論だが、高性能で低価格な機器が普及すると、陸上用などそもそもの用途以外に悪用される可能性もあるので、講習が必要。

(5) その他

- ・海岸局補完型共通システムについては、海難が発生したときの通信連絡に関する責任所在など明確にする必要がある。

【配付資料】

|            |  |
|------------|--|
| 資料海共 WG3-1 | 海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会 ワーキンググループ第2回会合議事要旨（案）        |
| 資料海共 WG3-2 | 海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会 ワーキンググループ構成員名簿【平成20年6月10日現在】 |
| 資料海共 WG3-3 | ワーキンググループにおける今後の検討事項（追加事項案）  |
| 資料海共 WG3-4 | 海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会 制度サブワーキンググループ構成員名簿           |
| 資料海共 WG3-5 | 小型船舶における海上通信システムの評価結果（暫定版）   |
| 資料海共 WG3-6 | 船舶共通通信システムの条件検討（素案）  |
| 資料海共 WG3-7 | 既存システム（海岸局補完型）検討資料   |

【参考資料】

|            |              |
|------------|--------------|
| 参考海共 WG3-1 | 新世代落水者救助システム |
|------------|--------------|